

## 遺跡周辺の様子



### 東側から撮影



### 西側から撮影



令和4年度第2回 遺跡見学会資料 令和4年9月17日(土)

ひがしほんじょう

# 本庄市 東本庄遺跡(C地点)

東本庄遺跡の発掘調査は、県道花園本庄線の工事に伴って、令和4年(2022)1月から開始しました。今回の調査では、古墳時代から平安時代にかけてのムラの跡や、中世の屋敷の跡が見つかりました。



# 東本庄遺跡（C地点）全体図



## 古墳時代

第23号住居跡

第23号住居跡は、北西にカマドを設けた<sup>たてあなじゆうきよあと</sup>竪穴住居跡です。住居内からは、貯蔵用の壺、煮炊用の<sup>ちようどうがめ</sup>長胴甕などのほか、底部に孔を蜂の巣状にあけた<sup>こしき</sup>甑や、小型の壺などが出土しました。カマドの近くからは、甕に甑が重なった状態で出土しました。



たかつき  
高坏



甑



甕と甑

## 奈良・平安時代

第5号住居跡は、北にカマドを設けた竪穴住居跡です。<sup>はじき かめ つき みみざら</sup>土師器の甕や坏、耳皿などが出土しました。また、漁でつかう網につけた<sup>どすい</sup>土錘も出土しました。



第5号住居跡



耳皿

第7号住居跡は、東にカマドを設けた竪穴住居跡です。<sup>だいつきがめ りよくゆうとうき ごうす</sup>土師器の台付甕や坏、緑釉陶器の合子、鉄製の鎌などが出土しました。

この合子は、愛知県の猿投窯で焼かれた極めて貴重な品です。平安京の冷然（泉）院跡からも出土しています。大きさは、口径6cm、高さ2.3cmです。



緑釉陶器（合子）



第7号住居跡



東本庄遺跡C地点は、北西のローム台地から南東の低地へ向かい傾斜しています。高低差は約1.5mあります。

台地の上には、古墳時代後期の集落跡が見つかりました。また、台地から低地にかけて奈良・平安時代と中世の集落跡などが見つかりました。



第5号 かわらけ溜り

## 中世

かわらけ（素焼きのお皿）の集中して出土した場所が、5箇所検出されました。かわらけは大・中・小の3種類がありました。そのほかに、使い込まれた<sup>すずり</sup>硯やスタンプの押された火鉢なども出土しました。



かわらけ



硯



本庄市教育委員会 調査範囲

- 凡例
- 竪穴住居跡（古墳時代）
  - 竪穴住居跡（奈良・平安時代）
  - 井戸跡
  - 溝跡
  - 土壌・ピット
  - かわらけ溜り

